

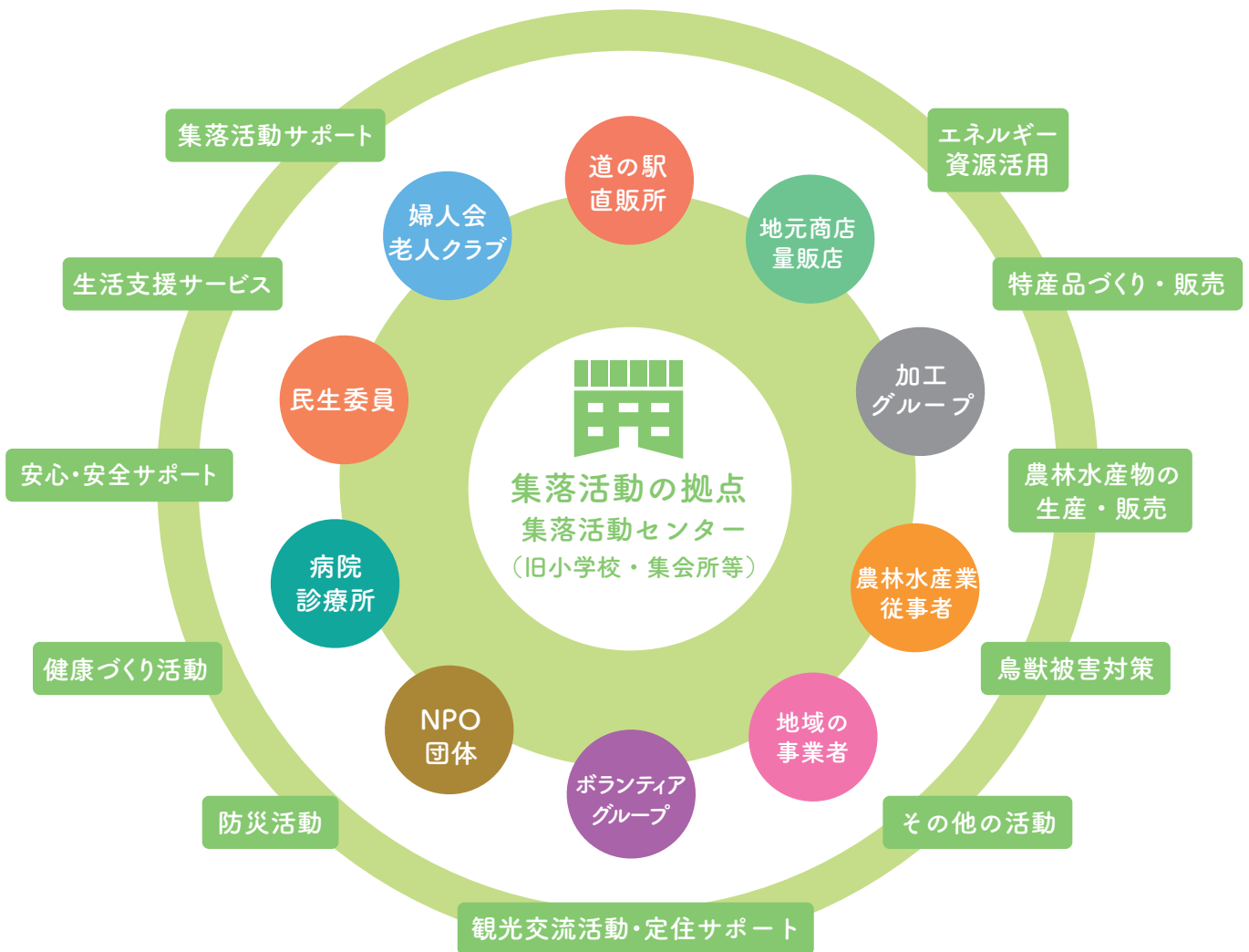
# 1 | 集落活動センターとは？

集落活動センターとは、地域の住民が力を合わせて、将来にわたり「安心して暮らし続けられる集落づくり」を進めるための仕組みです。

旧小学校や集会所等を拠点として、近隣の集落どうし（旧小学校区単位を想定）が連携しながら、生活、福祉、産業、防災などの活動について、地域ぐるみで取り組みます。運営には地域の組織や個人が関わるほか、地域おこし協力隊や集落支援員など、地域内外の人材を活用しています。

※地域おこし協力隊：都市地域から過疎地域等へ移住し、各市町村から委嘱を受け、地域での活動を行う

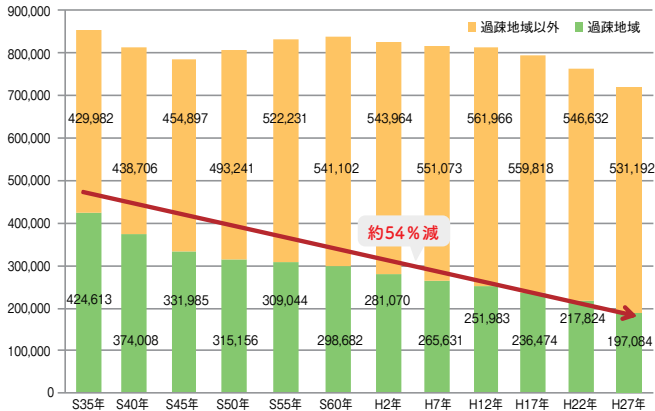
集落支援員：各市町村からの委嘱を受け、市町村職員や住民とともに集落対策を推進する



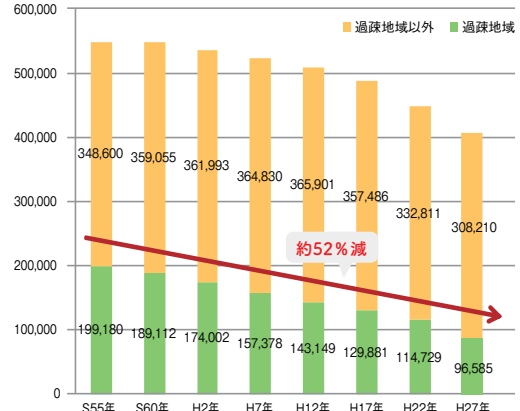
## 2 | 中山間地域の現状

### 人口の減少と高齢化の進行について

高知県の人口の推移

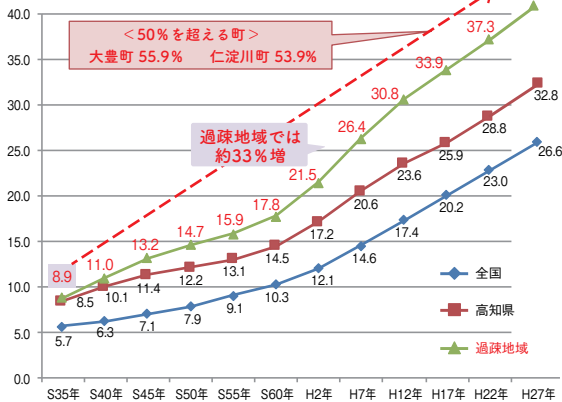


過疎地域の生産年齢人口(15~64歳)の推移

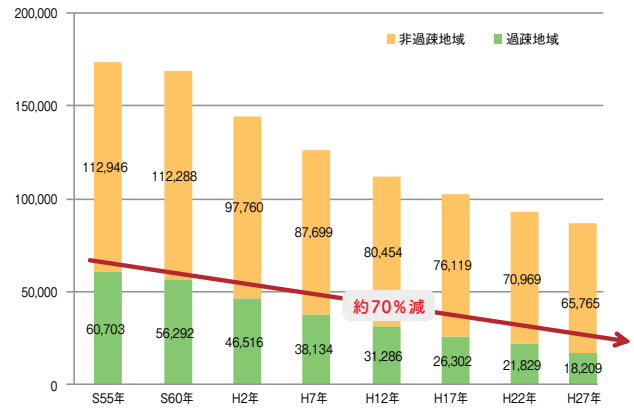


高知県の人口は全国で最も早く、平成2年から自然減しています。また、過疎地域<sup>※1</sup>の人口は昭和35年から継続的に減少し、昭和35年から平成27年までの55年間で約23万人(約54%減)も減少しています。また、この35年間で過疎地域の生産年齢人口は半減(約52%減)しています。

過疎地域の高齢化の推移

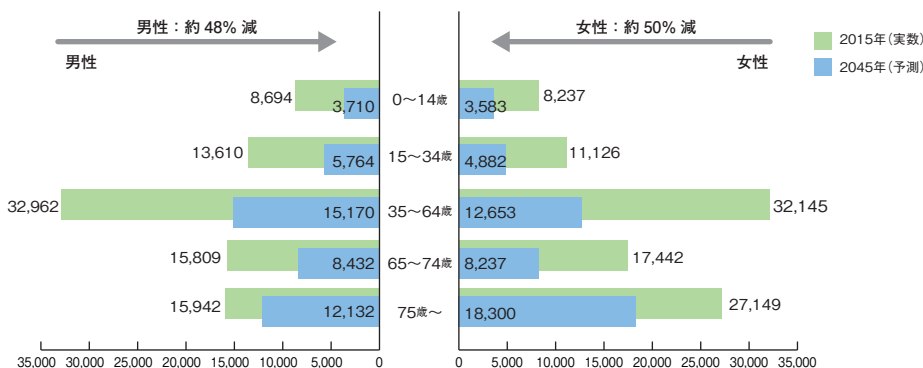


過疎地域の年少者(14歳以下)人口の推移



高齢化率は全国平均に比べ10年以上早いスピードで進行し、全国で2番目の32.8%(全国平均26.6%)。過疎地域ではさらに8.9%も高い41.7%となっています。また、この35年間で年少者数は約4万人(約70%減)も減少しています。

過疎市町村の2045年の人口ピラミッド



2045年には、過疎市町村<sup>※2</sup>では人口が49%減少し、年少者人口と生産年齢人口はそれぞれ57%減少すると考えられています。

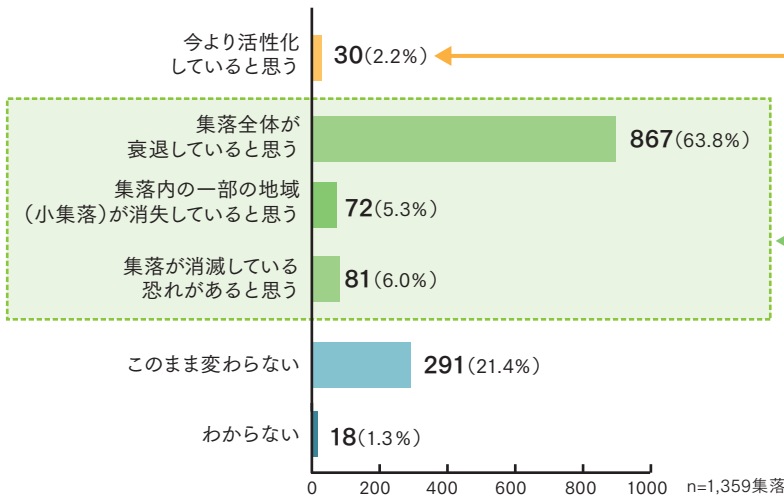
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」による

※1) 過疎地域：過疎地域自立促進特別措置法の要件に当てはまる地域で、高知県では以下の地域が該当する。高知市の一部(旧鏡村・旧土佐山村)、室戸市、安芸市、須崎市、土佐清水市、四万十市の一部(旧西土佐村)、香南市の一部(旧赤岡町・旧夜須町)、香美市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町の一部(旧本川村・旧吾北村)、仁淀川町、中土佐町、越知町、橘原町、津野町、四万十町、大月町、三原村、黒潮町  
 ※2) 過疎市町村：上記過疎地域から、高知市、四万十市、香南市、いの町を除いた市町村

10年後の集落は……

75.1%の方が今より悪くなっていると回答

※集落代表者聞き取り調査



【活性化の主な理由】

- 若い世代がいる
- 人が増える可能性がある

【衰退や消滅の主な理由】

- 高齢化が進む
- 人口や世帯が減少する
- 若者や後継者がいない(少ない)流出する

集落で困っていること(課題、悩み)は……

※集落代表者聞き取り調査

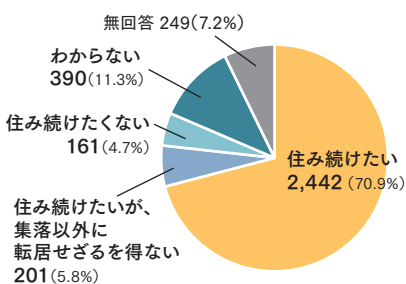
- 高齢化による地域活動の停滞化、人員の確保など
- 集落長のなり手(後継者)がいない
- 若者がいない
- 飲料水や生活物資の確保
- 交通などの生活の不便

今後もこの集落に住みたいか

※世帯アンケート調査

76.7%の方が住み続けたいと回答

n=3,443人

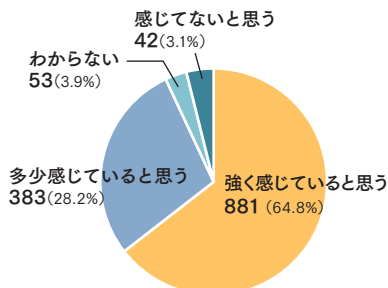


集落への「愛着」や「誇り」は

※集落代表者聞き取り調査

93.0%の集落で感じていると回答

n=1,359集落



【主な「愛着」や「誇り」】

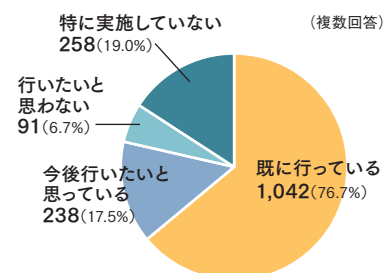
- 住みやすい環境
- 自然や景色
- 人情(人)
- 集落のまとまり、助け合いなど

近隣の集落との連携は

※集落代表者聞き取り調査

94.2%の集落で既に行っている  
今後行いたいと回答

n=1,359集落



【今後行いたい主な取り組み】

- 自主防災活動
- イベント、交流事業
- 農作業などの共同作業

中山間地域を中心とした、おおよそ50世帯未満の集落を対象に実施した「集落実態調査」(平成23年度)では、人口の減少、高齢化の進行による集落の衰退など、中山間地域の多くの課題が浮き彫りになりました。

一方で、地域への愛着や誇り、集落同士で助け合いながら住み続けたいという住民の思いも確認することができました。

まとめ

人口減少と高齢化により、今後ますます集落で求められる機能の維持が困難になることが予想されるなか、高齢者の暮らしを守り、若者が住み続けられる地域の実現を目的とした取り組みが求められています。

# 3 | 期待される地域のあり方

愛着のある地域で暮らし続けるために、住民・行政・関係団体などが協力して地域の課題解決に取り組まなければなりません。集落活動センターを通して、地域の実情に応じた様々な活動を行うことが可能となります。

集落外からの来訪者が少なく、  
世間から忘れられているような気がする…

夜になると真っ暗で、人気がなく寂しい…

地域の人と話すきっかけがなく、  
付き合いが減ってきた…

バスの本数が少なく、  
住民のための交通手段がなくて不便…

集落内にまとまりや団結がなく、  
活気がない気がする…

年寄りばかりになってしまった。  
若い人が暮らすためには仕事がないと…

集落に必要な機能が疲弊してきた…

地域の実情に応じたオーダーメイドの活動により、  
集落機能を維持していくための「仕組みづくり」



「集落活動センター」

## 活動内容(例)

- 安心・安全サポート
- 健康づくり活動
- 防災活動
- 集落活動サポート
- 鳥獣被害対策
- 生活支援サービス
- 観光交流活動・定住サポート
- エネルギー資源活用
- 農林水産物の生産・販売
- 特産品づくり・販売
- その他の活動

### 地域の良さを実感

集落活動センターでたまに手伝いをしているが、地域外の方が来て「とてもいい所だ。また来ます」と言ってくれた時など、とてもうれしくて、地域の良さを実感した。



### 安心感

町外へ仕事に出ているので、自宅へは寝に帰るような状態だが、拠点施設に灯りがともっているのを見たり、数台の車が停まっているのを見るのは、ホッとした気分になる。様々な立場や年代の人を受け入れてくれる場所があることは、大変心強く思う。



### 新たな人のつながり

今まで名前は知っているがお付き合いのなかった方々と友達になった。



### 利便性の向上

住民アンケート結果などをもとに、地元の意見としてバス会社に運行時間の変更を提案した。その結果、バス会社が運行時間を見直してくれ、病院への通院などが楽になった。



### 新たな活動の開始

- これまで活動に参加していなかった若い世代(40歳代)が新たにグループを作り、お菓子の製造・販売を始めた。
- 特産品販売は個々の取り組みが主体だったが、地域全体のブランド化に向け動きだした。

### 運営組織の経営改善計画

高齢化が進んでおり、活動に従事できる人が少ないため、雇用により人手を確保しているが、その財源確保が課題。今後は、交流施設の宿泊者数の増加や新規加工品開発により、収益を上げる計画を立てている。



## 4 | 集落活動センターの具体例



試験栽培中の杉苗の生産ハウス



拠点施設外観



拠点施設外観



チムジルバン内部の様子

### 西峯(大豊町西峯)

人口: 169人 / 世帯数: 123世帯 / 高齢化率: 79.3%

#### コンテナによる杉苗の生産と販売

##### 1. 経過

公民館の移転をきっかけに、住民が気軽に集える場の建設を役場に要望。住民が役場などとともに、施設の利用方法や地域の特徴を生かした収益活動などについて話し合いを重ね、平成27年3月に集落活動センターを開所。

##### 2. 概要

拠点施設では、健康体操や共同集荷などに取り組んでいるほか、杉苗のコンテナ栽培に取り組み、木材の地産地消・地域内循環の仕組みづくりに取り組んでいる。

##### 3. 地域の声

試験的に始めた杉苗の生産は、最大6万本の栽培が可能な体制を整えた。今後は需要を見据えながら、更なる増産を目指したいと考えている。

### はつせ(栲原町初瀬)

人口: 126人 / 世帯数: 70世帯 / 高齢化率: 62.7%

#### 韓国風サウナとレストラン経営

##### 1. 経過

韓国との交流をきっかけに始めたキムチづくりや高齢者などへの配食などの取り組みに加え、新たな交流施設の運営を行うため、地域内の組織を母体として推進委員会を立ち上げ、平成25年1月に集落活動センター「はつせ」を開所。

##### 2. 概要

平成27年3月からは韓国風サウナ(チムジルバン)と韓国風レストランをオープンし、経営している。オープン以来、集落人口の150倍以上、約19,200名のお客様が訪れている。

##### 3. 地域の声

「知る人ぞ知る癒しの隠れ家」をコンセプトに運営しており、多くの皆さんにお越しいただき、初瀬区・栲原町の良さを知っていただきたい。



月2回の食堂「大宮ランチ」の準備



農業体験



ウォーキングイベントの様子



屋台村の様子

## みやの里(四万十市西土佐大宮)

人口：234人／世帯数：122世帯／高齢化率：57.2%

### 日用品販売店舗など、住民生活を地域で支援

#### 1. 経過

JA支所の撤退をきっかけに、住民が出資した株式会社がガソリンスタンドや日用品販売店舗を経営してきたが、地域全体で人口減少や高齢化といった課題に立ち向かうため、地域内の住民や団体で構成する組織を設立し、平成25年5月に集落活動センターを開所。

#### 2. 概要

ワークショップで出された意見を6W2H※で分類・整理し、できそうな内容からスケジュールを作成し実行。放棄竹林の整備や月2回の食堂(大宮ランチ)の運営、旧保育園を改修して平成28年からは葬儀も行うようになった。

#### 3. 地域の声

危機感を住民が共有し、その上でアイデアを出し合い、協力し合いながら取り組むことが大切。

※6W2Hとは：物事を分類・整理し、問題解決につなげる考え方の手法。  
When(いつ)、Where(どこで)、Who(だれが)、Whom(だれに)、What(何を)、Why(なぜ)、How(どうやって)、How much(いくらで)

## 北郷(黒潮町北郷)

人口：116人／世帯数：64世帯／高齢化率：59.5%

### 旧校舎を地域の交流拠点に

#### 1. 経過

小学校の廃校により、学校行事を通じた地域のつながりが途絶えてしまい、集落の交流を深めたいという地域の思いのもと、『北郷の地域づくり計画』の策定を通じて地域の課題を明らかにし、平成25年3月に集落活動センターを開所。

#### 2. 概要

あったかふれあいセンターとの連携、ウォーキングイベントや屋台村などのイベント交流事業、ニンニクなど農作物の出荷事業を行っている。

#### 3. 地域の声

住民が生きがいを持って、住み慣れた地域で引き続き生活できるように取り組んでいる。

# 5 | 集落活動センターの活動イメージ

集落活動センターは、地域のニーズや課題に応じて、さまざまな活動に取り組んでいます。



## Life & Business

支え合い活動と経済的な活動を兼ねた

### 安心・安全サポート

- 集いの場

地域住民が集まる場所の確保

- 高齢者などの見守り活動

声かけ、安否確認、非常時の援助



### 健康づくり活動

- 元気に暮らす

拠点づくり、健康体操の実施、健康診断の開催



### 防災活動

- 災害に備える

防災拠点づくり、連絡網整備、避難訓練の実施



### 集落活動サポート

- 日常の支え合い活動

農業の共同作業、草刈り、掃除、雪かきなど

- 行事の運営

祭り、運動会、学生との交流など



### 鳥獣被害対策

- 野生鳥獣被害への対策

集落ぐるみの防除の取り組み、ジビエ(シカ肉、シシ肉など)の取り組み



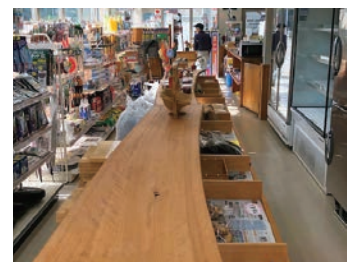
### 生活支援サービス

- 生活物資の確保

集落コンビニ、移動販売、通信販売、宅配サービスなど

- 移動手手段の確保

交通空白地有償運送、無償運送、タクシー事業者と連携した仕組みづくり





活動もあります。

**Business**  
経済的な活動

### ● 地域住民向け店舗経営

日用品販売、ガソリンスタンド  
継承など



### 観光交流活動・定住サポート

#### ● 交流活動

滞在型(宿泊)観光交流、自然体験、  
各種イベントの実施



### エネルギー資源活用

#### ● 売電及び燃料販売事業

太陽光発電、小水力発電、  
バイオマスの活用



### その他の活動

#### ● 県・市町村からの業務受託

道路、河川などの管理、公共施設など  
の管理、業務のアウトソーシング

#### ● 福祉サービス事業などの展開

介護サービス、グループホームの運営、  
冠婚葬祭事業、人材派遣など



### 農林水産物の生産・販売

#### ● 地元食材の販売

園芸品目などの集出荷、薬用作物・  
山菜、特用林産物の栽培、  
地域固有の作物栽培



### 特産品づくり・販売

#### ● 加工品の製造販売

農林水産物の加工品づくり、  
伝統食の継承、農家レストラン



# 6 | 事業継続のイメージ

自分たちの地域の実情にあった事業継続のイメージを協議しておきましょう。

